

# 環境活動レポート

2011 年度

(2011 年 4 月～2012 年 3 月)

MS & AD 基礎研究所株式会社

作成日 : 2012 年 5 月 15 日

## 目次

1. 会社概要
2. 環境方針
3. 組織図及び実施体制
4. 環境目標
5. 環境活動の取組計画と評価、次年度の取組
  - 5-1 主要な環境活動計画
  - 5-2 環境活動結果の評価と次年度の取組
6. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無
7. 代表者による全体評価と見直しの結果

## 1. 会社概要

### (1) 事業所及び代表者氏名

事業所名 : MS&AD基礎研究所株式会社  
代表者氏名 : 代表取締役 須藤 康夫

### (2) 所在地 : 〒151-0053

東京都渋谷区代々木3-25-3

### (3) 環境管理責任者氏名 有賀 平

連絡先 TEL : 03-5371-6055  
FAX : 03-5371-6114

### (4) 事業概要

当社は、次の事業を営むことを目的とする。

1. 国内外の保険制度、保険事業、および経済、社会、法制度に関する調査研究
2. 年金・介護・医療等に関する調査研究
3. 環境問題に関する調査研究

### (5) 事業規模

活動規模	単位	2009年度	2010年度	2011年度
主要製品生産量	t	0	0	0
売上高	百万円	100	216	187
従業員	人	7	13	14
床面積	m <sup>2</sup>	157.35	268.71	268.71
敷地面積	m <sup>2</sup>	-	-	-

※ 2010年4月に合併による社名変更・事業所移転

※ 2012年4月末現在の従業員数は15名

### (6) 登録の対象範囲と対象期間

認証・登録範囲 : 全社

レポートの対象期間 : 2011年4月1日～2012年3月31日

発行日 : 2012年5月15日

※ 2009年11月より エコアクション21を運用

## 2. 環境方針

### 【基本理念】

MS&AD基礎研究所は、MS&ADインシュアランスグループの掲げる「グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支えます」という経営理念に基づき、企業活動を通じて地球環境の保全と改善に努力し、下記の行動指針に沿って着実かつ持続可能な取組を推進していきます。

### 【行動指針】

#### 1. 保険・金融サービス事業を通じた地球環境保護

MS&ADインシュアランスグループのあらゆる部門で、地球環境問題解決に寄与する商品・サービスの開発や充実を図り、社会に提供するよう努めます。

#### 2. 事業活動における環境負荷の軽減と生物多様性の保全

環境関連法規制やMS&ADインシュアランスグループが同意した産業界の憲章・指針等を遵守し、事業活動における環境負荷を軽減するとともに生物多様性の保全に努めます。

#### 3. 環境マネジメントシステムの推進

環境マネジメントシステムを構築し、環境目的・目標を定めた継続的な取組を行い、地球環境保全に努めます。

#### 4. 環境啓発活動を通じた社会との共生

環境教育を通じて役職員の一人ひとり自ら積極的に環境保全活動を遂行できるよう社内外での環境啓発活動を推進するとともに、環境に関する情報を広く開示し社会との共生に努めます。

本環境基本方針は、MS&AD基礎研究所の全役職員に周知徹底いたします。

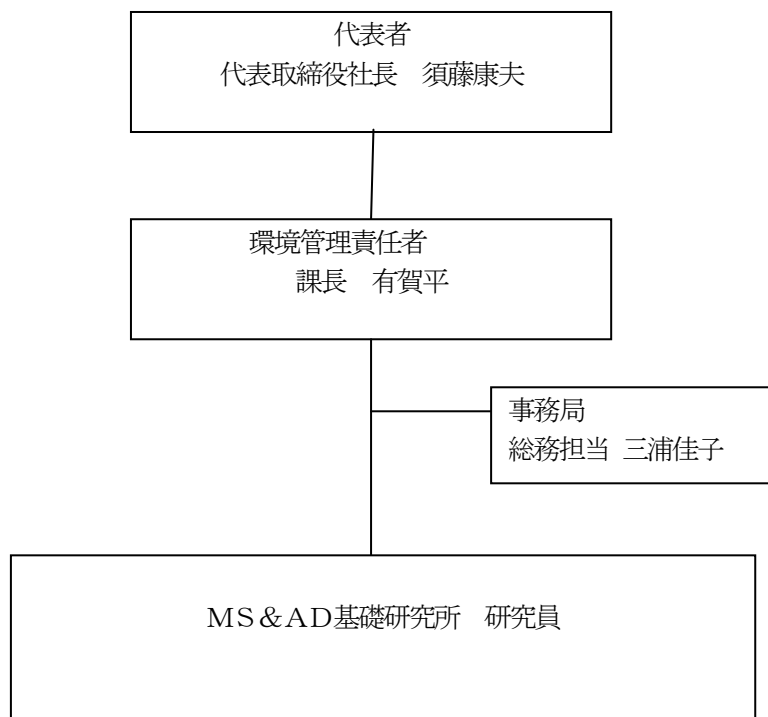
平成22年4月1日

MS&AD基礎研究所株式会社

代表取締役社長 須藤 康夫

### 3. 組織図及び実施体制

#### MS&AD基礎研究所 エコアクション 21 実施体制



役割	
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の制定</li> <li>環境管理責任者の任命</li> <li>エコアクション 21 の構築・運用に関して、システム全体の見直しを行い必要に応じて改定を支持する。</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムの総責任者としての役割権限を他の責任にかかわらず持つ。</li> <li>エコアクション 21 に関する運用を図り、代表者に実績を報告する。</li> <li>環境目標及び環境活動計画の策定、評価</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動計画の立案</li> <li>一般教育の実施</li> <li>文書の作成、管理、システム運用上の事務管理</li> <li>活動計画実施状況の確認と記録</li> </ul>
研究員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者を補佐、環境目標及び活動計画の実施</li> </ul>

#### 4. 環境目標（2010年度～2013年度）

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
	(基準年度)	(目標)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素排出量削減	合併後の周知と基準値の測定、不要部分の消灯等の意識付け 0.425Kg-Co2/kwh 10.939 t-Co2	2010年度の数値を基準とした1%削減 電灯設置状況の見直し 0.425Kg-Co2/kwh 7.623 t-Co2	電灯設置見直しにより大幅削減ができた2011年度数値の1%削減 省エネ機器導入の検討	2011年度数値の2%削減
事業用一般廃棄物の削減	合併後の現状把握と廃棄方法の事業所内周知 分別排出の励行とシュレッダー袋の枚数記録 1ヶ月あたり1.8枚	分別の継続と排出量削減に向けての意識付け 前年度記録したシュレッダー袋の枚数削減 年間20枚以内	分別と排出量削減の継続 シュレッダー袋の枚数削減（年間20枚以内/1名増員）	分別と排出量削減の継続 前年度の結果を踏まえた一般廃棄物削減目標
産業廃棄物の削減	合併後の該当物件把握と法令確認 居住ビルの規則に沿った廃棄の確認	居住ビルの規則に沿った廃棄の徹底と削減 居住ビルで回収されない廃棄物のマニフェスト回収	居住ビルの規則に沿った廃棄の徹底と削減 居住ビルで回収されない廃棄物の委託手続の確認	居住ビルの規則に沿った廃棄の徹底と削減
節水	測定不可/社員全員の意識付け	測定不可/社員全員の意識付け	測定不可/社員全員の意識付け	測定不可/社員全員の意識付け
OA用紙削減と刊行物の見直し	合併後のOA用紙使用量把握と、合併後の刊行物の環境対応検討 1ヶ月あたり38.4kg	前年度の数値を基準としたOA用紙10%削減 経理帳票類の紙削減 1ヶ月あたり34.56kg	従業員数1名増に対し、OA用紙使用量は前年度使用量の5%削減	前年度使用量をふまえたOA用紙の削減 刊行物の電子化・発行部数の見直し
環境保全活動に役立つ情報発信活動	研究テーマ、発行物への論文掲載等を通しての情報発信	研究テーマ、発行物への論文掲載等を通しての情報発信の継続	研究テーマ、発行物への論文掲載等を通しての情報発信の継続	研究テーマ、発行物への論文掲載等を通しての情報発信の継続
グリーン購入の推進	合併後のグリーン購入率の把握	グリーン購入率100%推進	グリーン購入率100%推進	グリーン購入率100%推進

※ エコアクション21の運用は2009年11月より開始しているが、2010年4月に合併による事業所移転、従業員数も2倍となった為、2010年度を新たに基準年度として目標を設定している。

※ 現在の居住ビルでは、電力量は電灯、コンセント電力のみ数値化が可能。（空調は大部分が全館コントロール）水道は共有スペースのみで、割りかけによる定額請求の為使用量を測定することが出来ません。

※ 廃棄物に関しては原則居住ビルで一括回収、廃棄されています。

※ 営業車の保有はありません。

## 5. 環境活動の取り組み計画と評価、次年度の取組

(2011年4月～2012年3月の活動結果)

### 5-1 主要な環境活動計画

環境目標	活動計画・具体的施策
<b>電力消費量削減</b>	現在の居住ビルでは、空調に関しては全館でのコントロールが大部分を占め、数値管理をすることができない為、目標とする計測値は 電灯とコンセント使用量のみとし、空調に関しては室内で設定できる部分のみ 夏 28℃ 冬 20℃設定の推進を目標とした。 2011年度は2010年度の合併により、前年度である 2010年度の数値(年間 25.738kwh 10.939 t・Co2)を基準値としたため、その1%削減を目標数値とした。 合わせて、電灯設置数の見直しと間引きの実施を目標とする。 ・昼休みの消灯実施(点検表の記入) ・長時間離席時のPC省電力モード設定 ・早帰りの励行と消灯、空調停止点検、最終退出時間の記入は継続する。
<b>一般廃棄物の削減</b>	一般廃棄物は居住ビルで回収、廃棄されている為、ゴミ分別一覧を掲示し分別の徹底を行うことを継続。数値管理可能な項目として 2010年度に使用枚数を記録したシュレッダー袋の枚数(1ヶ月当たり 1.8枚)を基準値とした削減(年間 20枚以内)を目標とした。
<b>産業廃棄物の削減</b>	居住ビルの規則に沿った廃棄の遵守と、パソコンの入替を予定していた為、居住ビルで回収されない物に関して廃棄物のマニフェストを回収することとした。
<b>OA用紙削減と刊行物見直し</b>	・OA用紙使用量は、基準値とした 2010年度の使用量(1ヶ月あたり 38.4kg)の10%削減数値である 1か月あたり 34.56kg以内を目標値とした。 また、事務業務の流れの中で、紙の削減が可能なものについて検討をする。 刊行物の FSC 認証用紙利用と発行部数の見直しは継続する。
<b>地球環境保全に役立つ情報発信活動</b>	本業にかかわる環境活動として、研究テーマとしての取り組みや、刊行物への関連論文、レポートの掲載、発信活動を行うことを目標とする。
<b>グリーン購入の推進</b>	環境対応製品を優先して購入する。 (商品購入歴のチェック/OA用紙の FSC 認証用紙採用)

### 5-2 環境活動結果の評価と次年度の取組

環境目標	環境活動結果の評価と次年度の取組
<b>電力消費量削減</b>	2011年3月の東日本大震災の影響等にもなう電力の使用制限措置の取組として、6月～7月に電灯の大幅な間引きを実行した。その結果目標値を大幅に上回る 30%以上の電力使用量削減(年間 17.936kwh 7.623 t・Co2)ができた。このため、次年度である 2012年度の目標数値を、基準値の2%削減から 2011年度数値の1%削減に修正をした。 空調に関して、事務所内で調節可能な部分の夏 28℃ 冬 20℃設定の推進は、事業所の窓が大

<p>(達成状況 ○)</p>	<p>きい（壁一面）関係上、特に冬の実行が厳しく、断熱シートを窓の下方に取り付ける等して努力をしたが厳守することは難しい為、次年度も努力目標とする。 不要部分の消灯確認、早帰りの励行は問題なく継続できている。</p>
<p><b>一般廃棄物の削減</b></p> <p>(達成状況 △)</p>	<p>ゴミ分別は前年度から継続して問題なく行われている。 数値目標としたシュレッダー袋の枚数削減は、3月に退職者がいたことと、レイアウト変更を行った関係で2月、3月の利用が増加し、結果として26枚となり年間目標枚数である20枚以内を達成できなかった。2月、3月を除けば1ヶ月あたり1.6枚で目標値をクリアしており、従業員数は昨年度よりも1名増員となっているが、シュレッダーの使用量は減っている。 次年度はさらに1名増員となる為、目標値はそのまま年間20枚以内としてゴミ削減の意識を持つよう活動を続けていきたい。</p>
<p><b>産業廃棄物の削減</b></p> <p>(達成状況 ○)</p>	<p>パソコンの交換により、居住ビルで回収されない廃棄物が発生したが、ISO環境内部監査を行っているグループ会社へ廃棄を委託した。（依頼先の会社で産業廃棄物処理業者からマニフェストを回収している。） 次年度もOA機器の廃棄が予想されるので、きちんと手続きを取って廃棄を行いたい。</p>
<p><b>OA用紙削減と刊行物見直し</b></p> <p>(達成状況 △)</p>	<p>OA用紙使用量については、基準値となる2010年度の使用量の記録が、合併作業により7月開始となり、1ヶ月あたり38.4kgという数値が、一番OA用紙の使用量が多いと考えられる4月・5月の数字が反映されていない数値であった点と、2011年5月・6月に予定していなかった業務監査（提出書類はすべて紙ベース）が入ったことを踏まえ、2011年度の実績の内4月～6月の期間は対象外とすることとした。 全社での両面・縮小印刷の徹底と裏紙利用、事務業務での紙ベースの確認作業の廃止等の努力の結果、7月～3月の使用量は1ヶ月あたり34.68Kgとなり、目標数値34.56Kg（基準値の10%削減）をわずかに上回ってしまったが、従業員数1名増員で昨年度よりも使用量が減少しているので成果が見て取れる。 刊行物の見直しに関しては、一部関連会社への配布数の見直しを行い、発行部数を500部削減した。FSC認証用紙の利用とデータ掲載の併用は継続して行っている。 2012年度目標については、5月と7月に勉強会の開催が多数予定され、資料の印刷が避けられないと考えられることと、従業員数が14名から15名となりさらに1名増加する点から、目標値を2011年度の通年の数値から5%削減をした1ヶ月あたり36.16Kgに修正をする。</p>
<p><b>地球環境保全に役立つ情報発信活動</b></p> <p>(達成状況 ○)</p>	<p>グループ向け勉強会を4回開催し、昨年度と合わせ計6回の「次世代自動車勉強会」を開催した。合わせて外部講師による大学での講座開催が1回（地球温暖化時代の企業の課題と金融・保険の役割）、グループ向け新聞へ記事を1件（深刻化する中国の電力不足）、環境問題に関わる情報発信活動を行った。 2011年度は業務委託による研究業務として、環境問題に関わるテーマは扱わなかったが、2012年度は調査を2件予定しているので、今後も本業となる情報発信活動でも環境取組に貢献していきたい。</p>
<p><b>グリーン購入の推進</b></p> <p>(達成状況 ○)</p>	<p>昨年度に引続き事務用品購入担当者2名で消耗品等を購入する際は意識して環境対応製品を選び、選択可能な商品はほぼ100%達成することができた。 来賓である講師の方へ講演の際ペットボトルの飲み物をご用意する時に添える紙コップのみ、業務上必要と判断し購入をした。</p>
<p><b>環境管理責任者総括</b></p> <p>一般廃棄物の削減やOA用紙の削減は、増員等の増加要因があったにも関わらず、前年比では減少しており、社内意識は向上していると言える。但し、目標との関係では、未達成であり引き続き、社内のエコアクションに対する意識を向上させる必要がある。産業廃棄物であるパソコンの廃棄については、データ管理の観点から当社が所属する企業グループの規則に沿って手続をする必要があり、これに従った。但し、企業グループ全体は、ISO14000の取得に取り組んでおり、廃棄についてはエコアクション</p>	



ン21に沿って行われている。したがって、マニフェストにて廃棄作業がグループ規則にそって行われていることを確認した。企業グループ全体で地球環境保全の取組みをしていることもあり、研究調査テーマ等についても、環境保全に寄与する活動を継続している。

※水の削減に関しては、事務所内に水道の設置がなく水道料も居住ビルの定額家賃に含まれているため、水道料を把握できないが、節水に努めている。

## 6. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無

	該当する環境関連法規制	遵守評価
1.	廃棄物処理法	違反無し
2.	資源有効利用促進法	違反無し
3.	家電リサイクル法	違反無し
4.	その他要求事項	違反無し

- ・当社に関わる環境関連法規等の遵守確認の結果、違反はありませんでした。  
また、過去3年間にわたり関係当局からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

## 7. 代表者による全体評価と見直しの結果

代表者による全体の取組状況の評価	見直しの結果
環境問題は大きなテーマですが、日常生活の中では忘れがちなところがあり、エコアクションという活動をして行くことは非常に良いことだと思います。	全員ができる範囲で努力をしているので、取組の大きな見直しの必要はないが、環境への意識を高め、未達成の目標を達成できるように全員が努力を継続する必要がある。

以上